



青枝



院定藏

甲子年定藏

花つみ

元禄五年の事
母のちよ
背まくらしの月のこゑをめ
悲ひをもほすと多く
あれを思ひを是りよせ
心とくはむ向けりとくと波
祇公の一とせつ日記をもあは
うまづれしあゆの情を



かのううれまくも地法論讚佛
事あつたよ入とのみあらじあ
絶えりんじと翁の教タウア
おおせよわ
かきく一文百句よみちぎれを
花摘と名付けむ也この日を
夜の月と軍の句と結縁とせし
予う句れ下すこれをとりて

ほさん人てつまむひと處
高佐も唐師貢觀疎をりて
すあよハ日記されど

一燈礼 其角述

上行寺

八日

灌佛や墓へゆくの獨云
帰もゆくのゆ
三歩す
身もとなあよ如也や
母つる 彩棠

九月 ひの雨で礪山を名づけ
角

僧釣賣カトリウタフ

カトリウタフ

羽黒

は室の底シテ桐キ 露丸

十日

宗竹ムツク みまくらミマクラ 送りよスルヨ

やまとヤマト カトリカトリ オギオギ

あくわアクワ アラアラ 修メイ

十一日

生つねイツネ 志シ 汗拭ハニタフ

角

郭コトコト 一イチ 着ツヅク

同

三月十一日ヒギ万日ミリマジ の念仏

えエ まマ くク もモ くク フ

そソ とト 一イチ 向ウカ こコ みミ とト

とト てテ 清水寺

山サン かカ とト しシ かカ うウ 行ウカ 舟ボウ

非ヒ 情ヨウ を 構コウ たタ の 松マツ 僧サムライ 幽ヨウ 水ミズ

おオ きキ 來カム 二ニ トト かカ ぐグ 蝶テフ

十二日 東巖山院

僧正サムライ まマ さサ ひヒ くク かカ ね

十三日 けケ みミ かカ 精セイ とト 深カミ くク みミ かカ ね

角

十印日

津草川遙游

アモリヒヤ 烟代ア
火の玉 夜の小屋 ヨル

十九日 雨

紙合羽衣 やくま世友念仏 同

十六日

羽羽花京の歌のと

十七日 黒牡丹神事神事の
人ひの歌子ア 大喜毛 同

郭云懺

同

アーデウス
底向こみ新 リトヒノ
山桜実を リトモモハ
名の歌 サ
秋色 彩棠

十八日

雨

白露ノ石菖ア 拠ノ償ニア

角

十九日

自愧

徳ありまと母 痛アリマ

くわめア

自棄

下帶や妙風れいヌ釣アモ

玄素

辭也

夢むれる花はぬるやふの

由良

正春

月よかし翠羽^{ヒトテ}相識と

角

射者中奕者勝

廿一日

蠶^{アシナガ}何^モあふ^ム熏心

尼智月

書^シ人^モ寺^モ同

幕^{マツタケ}の聲^{ノシテ}経^{ヨウ}さう

廿二日 佛骨表

志^シぐくハ蠶^{アシナガ}とす^ス

角

申の月とて

ゆきよ^ムも

衣^{アヒル}の^ハ幕帳^{マツタケ}にと入^ス

同

伊^イの^ハ幕帳^{マツタケ}にと入^ス

金

絵^シ書^シの^ハ扇^{フタバ}の^ハ水^{ミズ}物^{モノ}け^ル

紫^シ雲^{クモ}水^{ミズ}揚^{ハシマ}

縄^{ヨウ}ひごく心^ハ常^ハひ

金峯

廿三日

闲居

うらうすのりいわ
草子ももくとく

教忠のうじや

我や何と

うり指極

ト宅

山燒く東北の松門(伊賀)

東口

心きりりやぐれ木(同)

桃のもねぐらめ大(同)

野狐

是の日を説けの木(同)

知津

廿四日 宗長ノ句をもとて

楊つ一つ二つと野毛とせん

花をまきる人の一ひと

うつて入て送りけり

牡丹芳あらうつる白(僧)

蓋文

廿五日

奉納

くく夜湯(夜湯)けりせん

一時と今この如月(價)承

由水

角

鶴鳴(はづき)のまくら(枕) 琴風

艸庵(草庵)登卧

庵丁牛何とさく

まつづる 鰹をも主ぬ百里
能事の御城となる夕涼 同

廿六日

金盤

文乃さりへ赤豆 料理

角

廿七日

短衣を身に着けたる納骨の
膳所へ

同

かわり
神のあんてまよ漬田のく 翁

廿八日

あらへの聖と

内川やまの栗の蛙

角

は目利き飽く翁の脚の
羽黒山於本坊奥
行の山とも
元禄二年六月

奇

翁

住ほる人のよしの高草

露丸

川の水の經み葉を引ひく 曾良

鶴の毛弓とよんのよ

二日月

釣電

祀りの天とててる森の曾 殊妙
心もあゆもさめり行 梨水
眠ても昼の陰カナリをひきで 鈎雪
百里の旅を木曾キムラに追 翁
山の城の記カタニと書し 高九
斧アハチおまくし神木の森 曾良
まみみの跡シテひりゆ 釣雪
豆アマうじぬ更アフタと啼ヒ鬼 露丸

古佛所コトブコトをちづる 榛ハシバの曾 翁
泉スイよをねハシバくの秋 榆水
月ツキんよと門起アゲルれてアゲル 曾良
譽アマシりアマシがはらの羅ラの翁 翁
手ハンドいだかハダカしよ 花ハナれて 露丸
的場テツヂのホコロホコロる山ヤマの鈎雪
十 王ウニと鈎ハサウエセの年イの力石 畠

足りのこゝれどもひの卫裏 圓入

敵ノ門ニ向むかひリそら

がさくはる氣きを四しやの地じを也よ露丸

毒どく、ひきる山さん大だいの氣きを

ノハ橡トキ、枯か葉はの上うへ寒さむ、禁きん水

湯ゆの香かるくさる旭あら

體たいアもと行ゆる矢やと

猿さる、スけけれる東ひの海うみ因いん入

月つき山さんア風ふうの色いろを骨ほはじ、萬まん良

源げん治じ火ひのく電でん、梨なし水

ちちるるいいの梧梧、ア付つ、二つふたと房わを

ばばよよかかくく片かた蘚せん、憲けん釣つ、

盜ぬすつづくくくく妹め、おとと、翁おきな

祈き、き至いた、いた、周まわくくの神かみ、曾そ良

盃はいの音おとの流ながももうは、會あ覺く、

幕まく、まく、まく、まく、焚か、か、か、か、梨なし

湯殿

波^{ハシマ}きりのよめくはれ 箕

月山

さの峯^{イシツ}波^{ハシマ}風^{カク}山 同

日^ヒ山^{アリ}

まの山^{マツ}

の雪^{スノ}釣^{ハシ}雪^{スノ}

十九日

風情^{ハラタク}月^ツ張^{タケ}角^{カツ}

壬^{ホウ}集

五月朔日^{さうごれと}さの山^{アシマ}さの山^{アシマ}

名^{メイ}とうて^トいづり

いづりよぬとくと

さみれの先^{サミレ}心^{ハコ}節^{ハコ}角^{カツ}

空^{アモリ}獨^{ハタチ}みゑの山^{アシマ}彫^{カム}棠^{カツラ}

松原^{アシマ}野^{アシマ}あひ蜜蠻^{アヒハチ}渓石^{カニ}

けれあれとくとく

蛇^{ヘビ}の^{ヘビ}とくとく 雜^{ハナ}色^{カツラ}翁^{カツラ}

雞^{トリ}の^{トリ}月^{カク}雜^{ハナ}の^{トリ}去^{ハタ}来^{ハタ}

秋^{アキ}の^{トリ}尾^テも^{トリ}さ^{ハタ}茎^{ハサ}秋^{アキ}色^{カツラ}

胤說

みやすよすゆ

源下 落榜舍去來稿

荒く暮ニ出テ朝カクル家ニ居テ
人ヲ恐ルハ足ノウラニ麻持テ
シ山椒ノ眼小豆ノ鼻歯ハ糸ラ付テ
小袖ヲ縫ヘク耳ハ本葉ホノ芽ニ似
タリ地黃ラ啖ヘハ毛白ク大東ラ
嘴ハ口毒アリ尾ヲ切テ錐ノ鞘ト
為ハナシテシ背腹ノ色ニ目出テ薄モ

濃リモ染出セリ被カフリタル華ノ若
ナヒ裏入ノ繪虛言十ラニ筆ノ角ニ
鬚ヲ拔ルハ老テノ後ノ悔カ顔ノ
鳥魯ツキタルハ畫風ナレハ成ヘシ
ほくくあきら候と思ひを油を盡す
世の酒ヨヒ。さればゆり解す
よしアヒ粟とまやく。器と被すハ
ばくとアヒ

筆よりくそに情ゆる紙シロを
鄙カタへかとナのやまと傍カタひを
あよ景シケと仰アツムて漏カタ平カタハラのれカタを
何ナニと縮カタヒて侍タマシ人の例タマシよりカタは
詰カタマリてう書シトと燒カタマリ世カタマリの筆相カタマリと並カタマリり
神仏の貴カタマリと厭カタマリと墨畫カタマリの間カタマリと
終カタマリ人地獄カタマリの事カタマリと曾カタマリて
ももす身カタマリの筋カタマリと耳カタマリわるカタマリ

ももす身カタマリの筋カタマリと耳カタマリわるカタマリ

ワリく御身カタマリ力貴カタマリラ思カタマリヘ牛カタマリアト
ク虎カタマリ心猛カタマリテト下坐カタマリニちリ百敷カタマリ
賢キモ甲子カタマリヲ迎カタマリヘテ年カタマリノモララ政
玉カタマリア賀カタマリカヘル遼カタマリニ子日カタマリノ御賀ア
リ子祭カタマリト申スイワノ時ヨリハマリケ
ン漢カタマリノ傳カタマリノ歌ニモ洩カタマリレス洩カタマリヌヤ藻
塙カタマリノ陰カタマリニ住カタマリ海カタマリ嵐カタマリ林カタマリ也カタマリノ屋カタマリも

まよはくつれ秋朝ノ人ハ跡胤トツ
タエ侍レ麿齋香胤ハシラヌヒソ筑紫
ヨリ外ニユカズ天井胤ハ雷ヲ鳴リ
トコノし義ヲセ郎トハ申レ新屋門
ト名奈ハ月代剥テノ事ナルヘシ
大子等子^{コノ子}三寫廿日胤月ニ十二
ノ子ヲ産^{ウイ}サ^{ザニ}ノ扇骨バカリ。
誰カ家ニ取尽^シと得シモレ自胤參^{アリ}テ

福ノ神ノ使センモシレス

つぐみ拂^フ身^シが先と思ヘ嶮^{ハヤハヤ}
城^シと形^{ハメ}て竈^{フモ}も龜^{カニ}と^{トモ}く
謀^{ハシゴト}あらん^シと見^シて癪^{ヤクニ}ト^{トモ}く
えり^{ハシゴト}と^{トモ}くや^シえり^{ハシゴト}
いとあらす^シき^シ御^モの^シ木^キに^シ解^{ハシゴト}
吹矢^{スル}弓^クも^リとも^リ者^{ハシゴト}
う^シ火^{アシ}胤^{ハシゴト}を^シ胤^{ハシゴト}ひ^シハシゴト

悲しきを孤寂の余生とて焼
角立つるにあがめ
折走障子の下
思ひは未よか
ゆゑどあれど
思ひは未よか
ゆゑどあれど

御身中隠レ里何レノホトリワ武藏
ニ風穴大比歟ノホコラ秃倉ナルカナド

カ帰ラサル頼毫が勢モ本意ト
ケカタシ猫ヲハムノ譬言モ不善十
ラ成得^エレ彼ヲソロシキ睡士ト世ニ
相住セシハ面白カラヌ浮世ゾ

酔株拙と色つる粟つ筋丸
いつとひくの筋びく
つづく筋は筋筋筋
門づく筋は筋筋筋
あくづく筋は筋筋筋
百匁のけちきんよ
あ集りを收めます

二日 うどんをかきをみて
さすのの機用を庫の内 角
三日 佐慶くまつらんく
繕^{ツナギリ}ノ縫^{ツナギ}を送りんるの上 同
午の年一年の夜もまたの日 同
競^{ツバキ}る堵^{ツブキ}下入のいとみ
同 一
有卦^{アマガタ}の突^{ツブキ}の綱^{ツブキ}酒^{ツブキ} よる 百里

雨^{アマ}あらわしの日書^{アマガタ}

東閣山房

僧

大佛
アメニ
うきやの雪下
路通
一吼ハウリ
おむつも出来
去來
ムツリテモアゲヒ
あひ方を承
尚向
大津
心來

いはもあけ觀耶よ いとまく
幽也 三翁
草の庵念佛の身 れ
庵人マトヒトのあひらうあ
里外チイヘイ
一笑イチザウ 加賀カガハ
狗吠と鳴いん観鶴巴風

御洞山の風子ヌツツム、夙文
 煙山の巻葉打芭蕉^{アシナガバ}加生
 代門の鶴と流し波の草^{シダ}珍夕
 鳴色^{キハ}をよ向ひ近^{ハシマ}の萬^{ミリ}尚自
 番するも^{カシメ}の麻^マ翁^{ウノ}
 もの番^{カシメ}を井^{イリ}アサ^{アサ}れ^ル由^ユ之^ヒ
公尾御門主
 六条也^{シロ}蕭^{アラタ}毛^モ所^シ風^{フウ}喬^{タカ}
 うがしほう鬼^{タケ}村^{タケ}猿^{ヤマ}の自^シ沾^シ荷^カ

田陽軍鑑^{トウヨウ}を^{トモ}生^ス
 ゆくもの信農^{トモ}と^{トモ}去^ム
 いやゆ中付^{トモ}と^{トモ}來^ム
 燐^{トモ}と^{トモ}所^{トモ}て^{トモ}
 燐^{トモ}と^{トモ}体勢^{トモ}の裏原^{トモ} 匠^{トモ} 翁^{トモ}
 ゆきと^{トモ}の^{トモ}すの霜^{トモ} 風^{トモ} 枝^{トモ}
 かりと^{トモ}秋^{トモ}の^{トモ}泊^{トモ} 沈^{トモ} 同^{トモ}
 は^{トモ}誰^{トモ}木綿^{トモ}を^{トモ}か^{トモ} 尚^{トモ}
 雨後^{トモ} 朝^{トモ} 水^{トモ} 山^{トモ} 川^{トモ}

卷之二

あらわしの皆々

御近官

翁

噴水（あふぎ） いづ大佛の尾當 同
水鳥のうぶをいづとは不揚水
めぐらさぬ船（ふね） 金峯

いづりいあくよこふ

翁

雪のや（ゆきのや） 佐助の影賓（えいひん） 僧

宗流

ち來（きらい）

神（かみ） まことひさうの 夜を昇（よをのぼる） 僧

道也

やをつゝれ松子（まつこ） 桂（けい） 儿勝
ナミヨリとらぬ 桂（けい） 儿勝

若くもとひ水と年（とし） の春

桃固

傾き下（おちおち） 一葉辭（ことば

衣醜（いじう）

野徑

何よけ傾危（おちがい） の事（こと）

翁

太平十句諱雷近之墨糟也
移驥入競馬之埒

花あるよ懸（けん） ほ

角

立日

卷之二

六日

櫂佩オホくわざとさりや芝青嵐雲
むろきのゆわよせ地す 溪石
梳スミケツの用ヨウの築ツク乃ノ齡ヨシも柴雲

止役浦ヨハシマ

地シテりとも養ヒヤウのすく

シテリ

杜トリの生アリきをもめぬりナガリる野ハタケ 溪石

花ハナの原ハラの横ヨコをもぐる

ハナハラト

ありと萬マツルの降ヨリるまもる

後アフタ憾ハラカ

是吉

七日

まよひけす淀ハラカを乃ノの
まよ舟ボウ 山川

脚シテて忘メムる

八日

霞カモの船ボウを帆ハタケをかげ八声歌

得ハセ正觀音像ニカワ

妙ミヤウの身カラを深ハラカ作ハサウ

角カタツムリ

毛モの蓮レン脚カモも身カラを匂ハラカ外スル

九日

雨

名ハ佛と身のまえの夜花
室則
枝拂ひ付す。初りも同

蓑モリタヒカナリ而
アシタモテナシ。鶴^{ヒバリ}ト沾荷

蓑モリタヒカナリ而

隣外^{アラシ}同

好物

入山^{アシ}人安^{アシ}や瓜畠^{カボチャ}三翁

贈^{アシ}芦屋

うつア香ガ半千^{ハナチ}草物^{スナ}と
山^{アシ}落^{アシ}モ^{アシ}也^{アシ}。粽^{アシ}同
魚^{アシ}の本^{アシ}のゆ^{アシ}ハ^{アシ}桐^{アシ}の^{アシ}も^{アシ}同
かま^{アシ}アモ^{アシ}アモ^{アシ}。西瓜^{アシ}水^{アシ}龜翁^{アシ}

難^{アシ}ミ^{アシ}アシ^{アシ}の衣^{アシ}モ^{アシ}サナリ^{アシ}同
いと^{アシ}氣^{アシ}や童^{アシ}。室^{アシ}付^{アシ}同

ミホ^{アシ}アシ^{アシ}アシ^{アシ}。かく^{アシ}のとみ
は^{アシ}アシ^{アシ}アシ^{アシ}。袋^{アシ}アシ^{アシ}佛^{アシ}海^{アシ}つ^{アシ}仙^{アシ}

十日

年

えが
よーと門へあらぬ真
籠のあかり一トトロイカ
まよふ車の林ノ底ナ
身とあめ
いぐれもアザレムモ
ゆうきさんうの巻ノリ奥事
にアツヌ
キモ

あよあうひ非貴
麻蓮

梅の香や月食の如きは
功徳と云ひ得

花木乞食了猶未
山川

炭燒ハヤシ
仙鶴セイツク
雀雨スズメ
猿人スルヘン
角ツノ
櫛スリ
の實スミ
小鳥スモウ
一志シテ
底トトロ
外スモウ
松翁ソウウ
初ハ
嚙ス
遠ス
火煙ハヤシ
同ドウ

絶景ヲ
むりぬや富士ノ櫻の其様ハ
角
ちゆうとう散歩も構ふ
沾荷

十一

あり蟬さきすかとあてたる不沾荷
さくらうき扇ひびき廉ひ 坡壘 梅雪

四卿のひるまひを

太和らぐくせん

春日和々や松の林を日代えと
上原ちまき柳を秋扇をめの鏡
大文論寺墨渦よ獨どくも茶端小
多底峯乳しおもよしとふいり水
せがれり竜田かの楓か

十二

さみじれやびく志野と出ぬべ角

十三

岩翁亭題送蟬

みづのや隣にてよ蟬の足 同
渋を碧く碧を碧く妙意の岩泉
の草つはひの先づりかわ初鰐 同
那のひの先づりかわ初鰐 同
同義とは筆ゆきも木山か 蓼水

十四

枇杷の葉をとれども角ふと蝸牛 角
形づりすけは枇杷の葉すと 岩翁
ナリシムと肩ぬる野りれ 同
言種と小葉の角を物茄子 枝童 松嵐

十六日

み粉實を食すが夕日 角
列ハ高ニヤリのくわもつに 淀 ニテ
仁和もソイ
門と山とすよりともどり 同

十六日

梅千りもとそ
梅ひら開けのわあ玉兎 角
十めうきをく錢

十七日

萬葉の書を教へ被思ひ
甲くはれ
せの色もと教へ思ひ 同
いの杜國例をとて
くもとを教へうけ
けの事もと教へうけ
摩ひとくとつけられ

きのくにひきりる者を
ちかひあふれど

羽ぬけるものもとくと

角

十八日

か年をあめむ
不死の香をとづくる

夕涼

十九日

せゆる老いはす
日が解もゆりてされ

運びくらむとひよ

竹をうけよ

同

二十日

こつくるすむけい
ひづる

すみれあわや

帆のふをゆよ

同

尤一日

市乃所金の下をま

涼——いと寐て髪剃^{ツリシ}憂心 扇

背むり葉守霄乃^{アキ}をま
旅人や^{アヒ}んざいぬあり和^ハ音
敗き火や^{アヒ}分^{ハセ}く^ハ偶^ハ簾^ハ 百里
み^ハく^ハ也^ハ憎^ハきと^ハ風^ハ水^ハ
さ^ハかく^ハ雪^ハを^ハ立^ハ水^ハ
坡童 梨水

尤二日

夜讀書

故をすやれり。本乃辻 角

九三日

露沾つる
能無行

月のやけく酒呑もと 清水鬼

九四日

旅立人ちよれん

審ト故を圖かずひ。艮げんの

同

九五日

義叔讚

傘カサの蝶蓮ハナビラの紫シ蝶テフ

九六日

山田昌悅

七

汗濃アヒりよ衣アヒノ聲アヒめいの 同

起舟興

宵アシすアシ橋アシの覗アシく茶アシノ匂アシ巴山

又アシ麻アシよ

夏衣アシいづれん老アシノ腹アシ 同

入湯アシ木琴アシをう

蟬アシノ聲アシあづき音アシ木

木曾川アシの柳アシの宿アシ川アシ

又アシぬ

山アシ

九七日

九八日

井
ノ
リ
ク
ミ
ア
ハ
の
タ
モ
ア
ヒ
ミ
シ
フ
ニ
ツ
ヤ
コ
ミ

都あひの 情のとくも
繁の長 タケ

九九日
母興

更に道はひよれたり

一夏半尺

夏か摘み行け葉のみ
櫻

卷之四

卷之三

禾生堂主月枝

1

陶文元

